

# 週刊 かわら版

生徒と保護者のための



## いよいよ 期末考査

早いもので一学期もひと月足らずとなった。梅雨もまだ明ける様子はない。つい先日、「中間考査が終わった」とばかり思っていたが、もう期末考査である。確実に時は流れている。やる気スイッチはどこに売っていますか?と聞いてきた生徒もいたが、「こちらが聞きたいくらいである。何もしないうちに「できないもん」と投げ出す人もいる。できないのではなく、しようとしていない人もいるように思う。

中間考査と違い、今回は試



### 先見コーナー

- 6/25(土) ○第3回自専攻科〇C
- 6/26(日) ○全商簿記 ○色彩検定
- 6/27(月) ○期末考査(予備日)
- 6/28(火) ○期末考査(～7/01まで)
- 7/01(金) ○第2回進路希望調査配布(3年)  
○スクールカウンセラー来校日 9:30～12:30
- 7/02(土) ○進研模試記述(3年は3日まで)
- 7/03(日) ○全商ビジネス文書
- 7/04(月) ○2年キャリア教育プログラム合同ロングホーム  
○体育祭実行委員会(13:15 MMH)
- 7/05(火) ○学科朝会(普通・マルチ・特進)  
○ボイラー取扱～5日  
○体育大会選手など選抜(5～7限)  
○県立短大オープンキャンパス
- 7/06(水) ○学科朝会(シス・自工・医福)  
○選挙管理委員会(3 F MMH 13:15～)  
立ち合い演説会の説明
- 7/07(木) ○学科朝会(メカ・処理)
- 7/08(金) ○第2回進路希望調査提出(3年)  
○青少年赤十字の日・CAD検定(全工)  
○パソコン利用技術検定(全工)  
○スクールカウンセラー来校日 9:30～12:30

次のかわら版第10号(通算46号)は7月1日(金)発行予定

サイエンス  
パートナシップ  
プロジェクト講座

鹿児島大学連携「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト講座」の募集です。  
○テーマ  
「連帯によるエネルギー革命」  
～葉っぱから学ぶ人工知能～  
○実施日程  
8月1日(月)～4日(木)

験の実施教科も多くなっている。そして、内容も少し難しくなっていると想像する。どこから手をつけたらいいのかわからない人、とりあえず、ノートや宿題の提出が確実になされているかを確認し、提出を済ませてほしい。

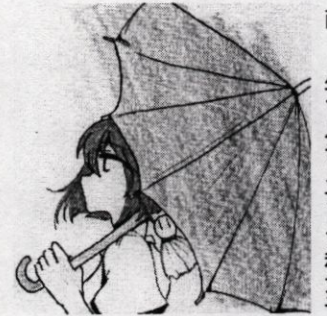
(3F)に問い合わせてください。申し込み締め切りは6月30日。

### スクールカウンセラー

当面のスクールカウンセラーの先生(臨床心理士)の来校日をお知らせします。保護者の皆様もご利用ください。ご希望の日の一週間前までに申し込みをしてください。教育相談部で日程調整をいたします。

- 7月1日(金)
  - 7月8日(金)
  - 7月15日(金)
- 時間は毎回9時～12時30分  
最終受付は11時30分です。

画 1年マルチメディア科女子



### 学校周辺の工事

日本ガスからのお知らせです。学校周辺でガス管理設工事を実施。6月23日から8月10日の間です。現場の誘導員の指示に従ってください。

### クラスマッチについて

7月15日(金)に開催予定のクラスマッチは、桜島総合体育館・溶岩グラウンドならびに多目的広場で、全校一斉に行われます。

現地集合、現地解散の形式をとります。現在、現地までの交通手段の調査を行っています。

### 編集後記

「天文館の新しい広場について考えよう」というアイデア募集の案内文を各クラスに掲示しています。そして、18時から投票ができるようになりました。健全な若者の意見が世の中を変えていくのですね。そのためには責任もついでくることを肝に銘じたいところです。

### 清流

先週の土曜日、田植えの手伝いをした。ひと昔前なら十数名で一日をかけていた田植えが、田植え機の導入によって、一人三時間くらいの労力で済んでしまう。ロボットやITの技術が人間の仕事を奪っていくのがわかるような気がする▼隣の田んぼでは、トラクターが入り、田植え前の作業をしていた。呼び止められて、トラクターを運転する羽目になった。免許は持っているが、運転するのは初めてである。まるで、自動車学校の教官を横にして、運転しているような気がした。前ばかりを見て運転していたその時、「前ばかり見ないで。一番大切なのは、時々後ろを見て、どれだけ整地や耕作ができたかを確認していくことだ・・・」と叱られた。前に進むことばかりを考え、自分がしてきた仕事を見直すことをしなかったことを反省した▼今週の努力目標は「目標達成に向けてのこれまでの取り組みを振り返ろう」である。自來週はテスト期間に入る。自分がこの四月に立てた目標に向けて何をし、どれだけ達成できたかを振り返る週にしたいのだから▼苗は、八十八(米)の手間暇をかけられ、秋には小金色の稲穂をつけるだろう。楽しみにしたい。